

美術科学習指導案

日 時 令和3年5月28日(金) 公開授業②
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年C組35名
会 場 美術室
授業者 佐々木 倫生

1 題材名 心の中の光を捉えて

2 題材について

(1) 生徒観

本校の生徒の多くは、美術の学習に高い興味・関心を持ち、知識・技能を習得することに熱心であり、また作品と向き合いながら制作を集中して行っている姿が見られる。3学年140名を対象に4月に行った風景画の事前調査では、「自分らしい作品となるように制作する」という項目において8割以上の生徒ができていますと回答し、概ね生徒自身で作品の主題を見出しながら制作していると言える。一方、創造的な制作活動の中で「見通しを持って制作する」項目において自信を持ってできている割合は全体の半数程度である。その理由として混色やぼかし、にじみなど知識技能の表現方法の解決に課題があり、それらを解決するために自分自身の力で粘り強く取り組むことやグループワークや集団の力で解決することにおいても課題があると言える。

これらのことから本題材を通じて、構想と制作が、乖離しないように指導の改善を図る必要があると考える。例えば思考の場面では、光の中に影が存在し、影の中に光があるといった『光と影』の双方のバランスを考察させることでより作品に対して迫っていく手立てとしていきたい。さらにこれらは、単に技法や手法によって得るものではなく、『光と影』の視点にさらに迫るために、形や色彩の特性を生かすとともに、試行錯誤を繰り返す中で習得させたい。さらに、制作における思考の過程を重視し、作品に対する「想い」を重視しながら、学習者が主体的に制作しようとする生徒の育成を図っていきたい。

(2) 題材観

本題材で「人間の強み」を発揮するために、自然の造形や美しさなど自ら感じ取ったことをもとに豊かに情意を形成する力、従前の学習から得た知識・技能を作品に活かしていく認知能力、目標の達成、他者との協働、感情のコントロールを含めた非認知能力といった3つの力を関連させることを働かせることであると考えている。

本題材は、新学習指導要領第2、3学年の目標(2)「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる」ことを主なねらいとし、自ら感じ取った色彩の良さや美しさを表現することを関連付けながら[共通事項]の内容に基づいて設定した題材である。1年次に行った『木を主題に描く』では、混色の技法やにじみ、ぼかしについての水彩画の手法を学習し、2年次には『遠近感のある風景』を視点に遠近法について学習をしている。3年次では、「光と影」という視点をもとに、そこに感じ取った情意をもとに描く学習を行う。これまで学年間で培った学習経験で得た知識・技能を利活用し、他者との協働を通じて、さらに表現を深めていくことで心の中で捉えた光から受ける印象を描き出していきたい。さらに情景の中にある色みや明るさ、鮮やかさなどが感情にもたらす効果を理解し、生徒自身が感じ取った情景を追求していく題材として設定した。

(3) 教科研究との関わり

研究主題「Society5.0を生き抜く『人間の強み』を育む学びの構想」のもとに教科研究主題「美のある日常を具現する、生徒の主体的な学びの構想」と美術科を設定し、研究を進めている。

【思考力等】形や色彩、材料、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解する力。造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する力。自然の造形の良さや美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し、豊かに発想し構想を練り、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める力。材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す力。

表 1. 風景画アンケート

質問内容	結果	
Q1. 主題を構想し、自分らしい作品となるように制作することができる	できる	30%
	どちらかといえばできる	54%
	どちらかといえばできない	14%
	できない	2%
Q2. 混色・重色において自分のイメージに合う色を作ることができる	できる	18%
	どちらかといえばできる	43%
	どちらかといえばできない	29%
	できない	10%
Q3. 意図に応じてぼかし、にじみなどの表現方法を活用することができる	できる	13%
	どちらかといえばできる	45%
	どちらかといえばできない	32%
	できない	10%
Q4. 風景画制作で彩色の見通しを持って制作することができる	できる	13%
	どちらかといえばできる	42%
	どちらかといえばできない	38%
	できない	11%
Q5. 『光と影』をテーマに描く際に大切だと思うことは何か?	・混色させて自然な色合いにすること ・感情を交え、光と影を捉えること ・柔らかさ、暖かさを生み出すこと 等	

【協調性等】相手意識や思いやりをもちながら、他者との対話や協働を行い、自分の考えを再構築する力。鑑賞を通じて、他者の感じ取ったイメージを受け取りながら、様々な多様性を受容し、寛容していく力。

【主体性等】美術の創造活動の喜びを味わい、自分自身の目標や解決したい課題に粘り強く取り組み、より良い表現を目指して工夫改善を行いながら主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている態度。

研究の視点①主体的・対話的で深い学び

本題材では、見通しを持って自分自身が制作に対する計画を実行する中で、自己が創出した主題に対し、表現意図に応じて創意工夫しながら制作していくことをねらいとしている。生徒自身が試行錯誤を繰り返し、そこから改善を図り、生まれた発想をもとに制作していくものである。生徒自身の表現意図に迫るためにアクティブラーニングにおける外化―内化の機能を十分に働かせ、生徒自身の創出したイメージについてメタ認知を促したい。そのために、個人での意見をペアワークやグループワーク、全体といった学習形態を生かし、自分の気付いたことや考えたことなどをお互いに言葉で説明し合う活動を通じて、自分にはない新たな見方や感じ方に気付き、さらに思考が深まるように色や形について考察する場面を設定したいと考えている。

研究の視点②情報・情報技術活用

本題材では、生徒自身が見た光景を iPad 内のアプリケーション『スケッチブック』を使用し、個々の表現意図に応じた描画方法を選択させ、自分自身が描き出したい光景を描き出すために活用していくものである。平成29年度新学習指導要領美術編解説「コンピュータの活用」では、ICTを使用することで何度でもやり直しができるとや色彩換えや構想の場面で試しができることを利点としても挙げている。さらに、色の選択に応じてアプリケーション「色彩ヘルパー」を用いることで作品の中にある RGB を認識させることや表したい色を探し出す際に用いるなど効果的に表現方法を追求させながら資質・能力を高めた。

研究の視点③『人間の強み』である創造力の育成

AIにはない新しいものをつくりだす力を発揮させるために生徒が自分自身、感動する風景写真から自分が感じ取った情意を基にして主題を生み出しながら制作すること自体が創造力を発揮している姿である。光と影を視点に構想し、技能と関連して発揮することによって生まれる創造性を伸ばしていくことを目標として行っていきたいと考える。感じ取ったことを描く過程の中には、光と影を映し出した自分の内側にある興味をもとに自分のものの見方でその世界をとらえた結果や過程を自分なりの表現の仕方を探求を続けることでもある。その表現の完成に向け、創造的に解決していく力を育成していきたい。

3 単元計画

(1) 題材の目標

【知識及び技能】

- ・形や色彩、光などの効果や性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解することができる。
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風で捉えることを理解することができる。
- ・描画材の特性を生かし、光と影の表し方について自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。
- ・描画材の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って表すことができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・身近な風景や場面などを深く見つけ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、心で捉えた光から主題を生み出し光と影を効果的に表現する構図などを考え、他者との対話や協働を行い、自分の考えを再構築し、鑑賞を通じて、他者の感じ取ったイメージを受け取りながら、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現の構想を練ることができる。
- ・造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に身近な風景や場面などを深く見つけ感じ取ったことや考えたことなどを基に、表現の学習活動に解決したい課題に粘り強く取り組み、さらにより良い表現を目指して工夫改善を行いながら主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、光などの効果や性質やそれらが感情にもたらす効果などを理解している。 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 技 描画材の特性を生かし、光と影の表し方について自分の表現方法を追求して創造的に表している。 描画材の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って表すことができる。	発 身近な風景や場面などを深く見つけ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、心で捉えた光から主題を生み出し、光と影を効果的に表す構図を考え、他者との対話や協働を行いながら、自分の考えを再構築し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現の構想を練っている。 鑑 造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表 美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に身近な風景などを深く見つけ感じ取ったことや考えたことなどを基に、解決したい課題に粘り強く取り組み、さらにより良い表現を目指して工夫改善を行いながら主体的に表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑 造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(3) 指導と評価の計画 形成的評価○, 総括的評価●

時	学習課題・学習内容等	関連する評価の観点			見取りの視点【評価方法】
		知技	思	態	
0	アンケート、オリエンテーション		○	○	実際に受けた印象をもとにして主題を見出すことができる。【発言内容、振り返り記述】
1	自分が見た景色から主題を考察しよう・自分が受けた印象を主題として表す				
2	画家が描きたかったものは何か感じ取ろう・ゴッホが描いた靴の絵を基に内面を創出する		○		作者の心情や表現意図を考え、作品に対する見方や感じ方を深めている【観察、振り返り記述】
3	画家が描き出したかった情景を考えよう ・画家の描き出したかったねらいについて考察しながら様々な表現意図を学ぶ		○		描かれた風景の表現意図を考察し、グループで協働し、他者の考えから自分なりの考えをまとめている。【発言内容、作品、振り返り記述】
4 本時	心の中の光を捉えよう ・描き出したい光を考察し、全体のイメージを描き出す		●		主題に応じて自分自身が描き出したい光を考察し、その光の姿を描き出している。【作品、振り返り記述】
5	構想を練りながら作品の下描きを進めよう ・自分の思い描いた構想を形として描く	○			主体的に制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って描いている。【作品、振り返り記述】
6	下描きを丁寧に仕上げよう ・画面全体に形を捉えながら描く	●		○	主体的に制作に取り組み、意図に応じて表現方法を工夫して形を描いている。【作品、振り返り記述】
7	基本的な描画方法で着彩する ・混色をし、ぼかし、にじみを行いながら自分が感じ取った色を着彩していく	○			主体的に基本的な描画方法を生かしながら、工夫して制作に取り組んでいる。【作品、振り返り記述】
8	表したい表現を考えながら着彩しよう ・重色を行い、表現の意図に応じて着彩していく	○			主体的に制作を行い、表現方法を考えながら工夫して制作に取り組んでいる。【作品、振り返り記述】
9	自分が思い描いた光と影への追求をしていこう ・光の表現の工夫と追求	○			主体的に光と影への表現方法を追求し、創造的に制作している。【作品、ロイロノートまとめ記述】
1 0	心の中の光へのさらなる追求を行っていこう ・自分が思い浮かべた光を伝える活動	●		●	主体的に制作を行い、形や色彩、光などから感じる情景を全体のイメージで捉えることできている。【作品、振り返り記述】
1 1	互いの作品の良さや美しさについて語り合おう ・作品から伝わるものや感じ取ったことなどを交流し合う		●	●	主体的に作品を鑑賞し、形などの効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、機能や美しさを感じ取っている。【振り返り記述】

4 本時について

(1) 主題

心で捉えた光を絵画で伝えるには

(2) 本時の目標

身近な風景や場面などを深く見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、光を効果的に表現するための色合いを考え、他者との対話を行いながら、自分の考えを再構築し、創造的な構成を工夫しながら心豊かに表現の構想を練ることができる。

(3) 評価規準

【思考力・判断力・表現力】

身近な風景を深く見つめた場面を想起し、その情景に対する情意などを基に、そのイメージを描くための表現の構想を練っている。

(4) 指導構想

生徒は、従前の学習の中で風景画について混色や重色、ぼかし、にじみなど基本的な着彩方法や遠近感を表現するための線遠近法などの構図についての学習の積み上げを行ってきた。今回はその集大成となる作品制作である。3学年では、今まで描いてきた風景画に対して視点を増やし、『光と影』についての学習を深めさせたい。そのためには、自分の表したい光から感じた情意などを基に、表現意図を創意工夫しながら制作を行い、ICTを活用して描くことによって見通しを持った制作を行わせたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入 5	1.(1)ムンクの描いた『太陽』の情景で伝えたいことは何だろうか。 ・光の色から見取ると様々な色が使われているから明るいイメージ。 ・光の形が真っすぐな線が使われているから気持ちは真っすぐ。 ・色や色彩, タッチなどから描き出したかったことを感じ取る。 (2)ムンクが写真で表せなかったことは何か。 ・実際には, 朝などの光景で写真には写らないものが描かれている。 ・心で感じ取ったものや情意を語り合う。	・被写体に移る色合いや形から連想できることを言葉で表すようにする。 ・理由を辿っていくことで写真(実際)とその場(現実)との区別をしながら, 生徒自身が思い描いた風景をイメージさせる。
学習課題【心で捉えた光を絵画で伝えるには】		
展開 1 0 2 0 1 0	2.自分が捉えた光を伝えるためにはどのようにすればよいだろうか？ ・眩い位の光と影が混ざり合った感じが心に残っている。 ・印象的なのは光が沈んでいくことで幻想的な光景だった。 3.その光景から描き出すために出来ることは何か？色は？形では？ ・その時感じた色を加える, 筆のタッチを加える, 気持ちを加える, 情意などを取り入れる, かすれたタッチではどうだったかなど 4.アプリでイメージを創出 ・生徒自身が描き出したい色を各々がタブレットの色や筆を扱い, 描き出している。また, 描き出すために必要な色をアプリ『色彩ヘルパー』を扱うなどして制作を行う。 5.作品鑑賞を行い, さらに改善できることは何だろうか？ ・自分が感じ取った光は柔らかい光であったのもっと薄い感じやぼかした感じの色合いに仕上げた方が良く考えた。 6.出来上がった作品を基に鑑賞活動を行う。 ・自分が描いた作品では, 感じ取った光や影や雰囲気が自然と明るいもので赤褐色よりも明るい橙色を使って主題に迫ってみた。 ・自分の心で捉えた作風となるようにタッチで描くようにしていたが, その時感じ取った雰囲気などを入れるために流れをつけてみた。	・自分が写真で撮ったこと以外で味わうことができたことは何かを考えさせる。 ・写真と現実では異なる情景で感じ取ったこと話し合う。感情を入れる, 色を入れる等。 ・自分自身が感じ取った光を具体的なイメージにして描いていく。 ・光の表現をどのようにすれば良いか伝えたい雰囲気を色やタッチについて考え, 自分の考えを描き出す。 ○シートへ記入 ・自分が見てきた景色の印象を心で捉え, 心に残るものとしてシートへ記入し, 主題に迫るよう考察する。 ・色やタッチ, 雰囲気などの表し方の工夫などを記入。
終 結 5	7. 振り返り→「振り返りシートの文言」について記述する。 振り返りの視点『心で捉えた光を描くときに大事にしたいことは何ですか？』	・振り返りを記入し, 教育支援アプリで提出。

振り返りの記述例

・自分が見た実際の光は, 写真と比較した時に, その場の空気感を伝えるために, 光を見た自分自身が伝えたいことが分かるように描くことが大切であると思った。今日の授業を受けて絵の具で塗る際には, 自分の心で感じ取った風景がより近くなるものものだと思います。上手いとか下手ではなく, 自分が心で感じ取った風景を描いていくことが大切であると思いました。